

青少年 はちのへ



# かがみ

青少年健全育成シンボルマーク



【発行】 第87号

八戸市教育委員会教育指導課

八戸市内丸一丁目1-1

Tel 43-2111 (内 6113)

Fax 47-4997

Eメールshido@city.hachinohe.aomori.jp

平成27年11月13日号

## 「家庭のルール」を話し合いましょう

携帯電話やパソコンは、使い方一つで、役立つ道具にもなれば、子どもの身を危険にさらす道具にもなります。特にウェブやメールなどのインターネットによるコミュニケーションは、顔の見えない相手とのやり取りになるため、個人情報流出や犯罪被害といったトラブルに巻き込まれる可能性があります。また、最近では、個人が特定されるような書き込みで誹謗(ひぼう)中傷を受けたり、悪口が書かれたメールが送られたりする「ネットいじめ」などの例もあります。

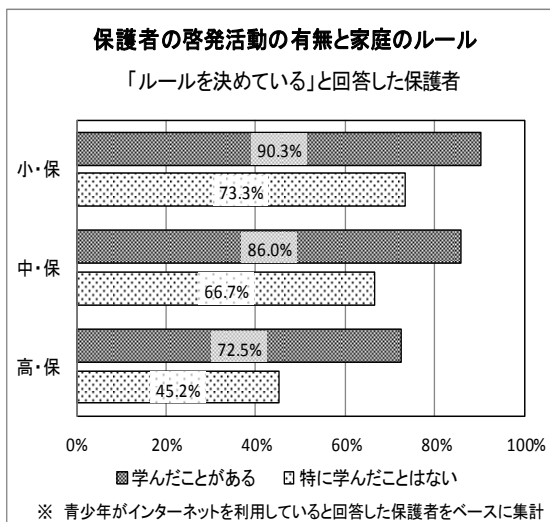
子どもがインターネットを利用するときには、目的や使う時間と場所、利用のしかたなど「家庭のルール」を決めることがとても大切です。子どもが利用したいと言ってきたときこそ、話し合いのチャンスです。「なぜ利用したいのか」などについて、親子で話し合い、納得した上で、「利用する・しない」を決めましょう。親が一方的に押し付けたルールは長続きしません。お互いが納得できるルール作りが大切です。子どもの関心が高い携帯電話やインターネットを入り口にして、さまざまなことを教えるきっかけを作ってみましょう。

右のグラフは、内閣府が行った「平成26年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」の調査結果によるものです。

青少年のインターネットの利用についての家庭のルールに関して、「ルールを決めている」との回答は、情報モラルをテーマにしたセミナーなどによる啓発経験のある保護者が高くなっています。子どもだけでなく、「保護者のリテラシ教育・学習」というのはとても重要なテーマであり、危険から子どもたちを守る施策として、一定の効果があることを示しています。

子どもたちが安全にインターネットを利用するためにも、お近くで開催されている IT リテラシや情報モラルなどのセミナーに、参加してみたいはいかがでしょうか。

〔家庭教育手帳(文部科学省)より一部引用〕



12月1日(火) 18:30より「子どもを守るインターネットセーフティー事業」保護者向け講座が下長中学校を会場に開催されます。どなた様も参加できます。(無料) 問合せは教育委員会教育指導課まで。

## 八戸市青少年健全育成「市民の集い」にお越しください

「子ども・若者育成支援強調月間」の11月に、次代を担う青少年の健全育成を市民総ぐるみで推進するため、意識啓発と心がふれあう地域活動や育成活動の活性化を目的として、「市民の集い」を開催します。

当日、飛び込み参加でかまいません。お気軽にご参加ください。お待ちしております。〔無料です〕

【日時】平成27年11月22日(日)

13:30~15:30

【場所】八戸市総合福祉会館

多目的ホール

(根城八丁目8-155)

【主催】八戸市青少年健全育成

「愛の一声」市民会議

【問合せ】0178-43-2111(内 6113)坂本

【内容】

○講演「わが国の子どもの健康—過去から未来へ—」

講師：八戸学院短期大学 看護学科准教授 山野内 靖子 氏

○児童生徒郷土芸能発表…江南小「法霊神楽」・湊小「巻網音頭」

○児童生徒弁論発表…お話し弁論・防犯弁論の最優秀者の発表

・梅内智穂子(吹上小6年)「姉と母とわたし」

・荒道 南月(八戸第一養護3年)「あの頃の私と今の私」

・稲岡 有沙(小中野中3年)「子どもたちのそばに」

# 温かい笑顔に支えられ、今年もグッジョブウィーク

今年で16年目となる「さわやか 八戸 グッジョブウィーク」は、中学2年生を対象に市内公立の全中学校で実施され、今年度およそ2,300名が参加しています。数日間の職場体験や福祉・ボランティア体験を通して、豊かな感性や創造性とともに自律性を高め、自分の生き方を見つけていくことを目的としています。「地域の子どもは地域で育てる」という視点で展開されるこの事業は、学校・家庭・地域社会の三者がそれぞれの役割を明確にし、準備段階からの連携が不可欠となります。事業の実施にあたっては、毎年、地域の方々の温かい御理解と御協力をいただき、深く感謝いたします。

病院でグッジョブウィークを体験した生徒の感想文を紹介します。

## 『新たな発見』 八戸市立北稜中学校2年 新井山 遥叶

私はグッジョブウィークで病院へ行きました。1日目は病院内の仕事を見学させていただきました。この日、担当の看護師長の方から、将来どのような仕事に就きたいのか尋ねられました。この病院で体験するのは、私を含め5人。みんな看護師や薬剤師、医師などそれぞれ夢があったようですが、私は正直これと決まっている夢はありませんでした。ただ、医療に携わることのできる仕事にはとても興味があり、グッジョブウィークでも病院を希望したのでした。

2日目は看護師の体験、そして最終日の3日目はリハビリ科の体験をさせていただきました。この3日目に私は新たな発見をすることになったのです。それは2つ目のリハビリ科の体験をする時でした。患者さんを乗せた車椅子を押しながら入ったのは、病室に近い個室でした。テーブルと椅子があり、車椅子が中に入ると少し歩きにくくなるほどの狭さでした。私がこの部屋で体験した仕事は「言語聴覚士」という仕事です。この仕事は手や足の機能ではなく、脳と食べ物を飲み込む力を回復させるリハビリを行うものです。この仕事を初めて知った私は緊張してしまいました。なぜなら、狭いリハビリ室に患者さんと言語聴覚士の方、そして、私の3人だけになったからです。しかし、この緊張していた私と比べ、患者さんはこのリハビリを待っていましたという笑顔で楽しそうに入っていました。ここで驚いたことは言語聴覚士の方のコミュニケーションの力です。リハビリの時間は1時間でしたが、その中のおよそ約半分の30分間は日常の何気ない会話をしていました。言語聴覚士の方がリハビリの道具を取りに3分間ほど部屋を空けました。部屋に残っているのは患者さんと私の2人だけ。笑いが絶えなかったこの部屋に初めて沈黙が流れました。心の中で「何か話さなきゃ」と思いながらも、何を話していいのか迷っている私。そのうちに患者さんが話しかけてくださいました。言語聴覚士さんがコミュニケーションをとっている姿は自分から積極的に話しかけ、患者さんの言葉をゆっくりと聞くことが多かったのに対して、私は逆に患者さんから話しかけてもらっている状態でした。学校でもどちらかという人と話しかけてもらうのを待っている自分を思い起こしました。ここで自分が変わらなければいけないと感じた瞬間でした。

このグッジョブウィークで、私は将来の夢を見つけました。それは言語聴覚士になりたいという夢です。言語聴覚士には自分からコミュニケーションを図ろうとする姿勢が必要だということもわかりました。夢や自分が成長しなければならない面に気付かせてくれたグッジョブウィーク。多くの方々への感謝の気持ちでいっぱいです。夢に近づくために、今の自分を変えることにチャレンジしていきたいと思います。



[写真は、北稜中学校と中沢中学校の今年度の活動のようすです]